



お金のありがたさ

東京都・筑波大学附属中学校 1年 中西 恒稀

ぼくの家トイレには、相田みつをの「こころの暦」というのがかけてある。日めくりの暦で、相田みつをの名言が書いてある。その中に、お金に関して、こんな名言が書いてあった。

「かねが人生のすべてでは
ないが有れば便利
無いと 不便です
便利のほうがいいなあ」

お金があれば、好きなだけゲームのソフトが買える。好きなだけ漫画もセットで買える。あれやこれや、いろいろなものを買うことができる。夏休みごとに、いろいろな国を旅行することだってできる。確かに便利だ。

でも、もしお金がなかったら、欲しいものが買えないだけではない。たとえば、兄弟のように可愛がっている愛犬の孔明が病気になっても、高額の治療費を払えないため、治療させてやることもできず、黙って死んでいくのを見守るしかないのだ。

ぼくの愛犬は、この夏休み、急性腎不全とすい炎という病気にかかってしまった。死亡率が非常に高い危険な病気だ。元気だった孔明が、ある日を境に、急に吐くようになって、ご飯はもちろん、大好きだったおやつさえも食べられなくなってしまったのだ。口のそばにおやつを持っていても、悲しそうな顔をして、顔をそむけてしまうのだ。

さあ大変、と孔明を動物病院に連れて行った。検査や点滴で、高額なお金がかかった。動物病院の先生には、「治るかどうかわからないけれど、有効な治療方法は、入院して点滴することなので、それをすすめます。」と言われた。費用は、1日に2万円から3万円かかるとも言われた。

孔明は、この時、14歳で、人間でいえば72歳。小型犬の寿命が15歳だと

言われているそうなので、かなりのおじいちゃん犬だ。さあ、どうしよう。母は、犬を飼ったことがある人たちに相談したようだ。たいていの人たちは、「もう高齢だし、犬の腎不全は、猫と違って治りにくいから、高額な点滴をしても結局は死んでしまうよ。自然に家族の中で死なせてあげた方がいいよ。」とアドバイスしてくれたそうだ。

高額な治療費をかけても、助からなかった犬。高齢だったり、飼い主が高額な治療費を払えなかったりで、お医者さんに診てもらわなかった犬。いろいろだそうだ。

ぼくは、絶対に孔明は治ると信じた。生まれた時から、孔明はぼくの家にあった。小さい時は、ボール遊びをしたり、海で遊んだりした。少し大きくなって、ぼくが父母に怒られるようになってくると、ワンワン吠えて父母を止めてくれた。ぼくの宝物。だから、ぼくは、ぼくの貯めたおこづかいを出すから点滴させてあげようと言った。母は、「もちろん点滴をさせてあげようね。孔明は、家族だから、ベストを尽くそうね。」と言ってくれた。ぼくたちは、動物病院の先生と相談して、入院をさせたりせず、検査も必要なものだけに抑えて治療費を抑えることにした。

ぼくは、母が仕事をしているので、毎朝点滴をしてもらうため、自転車に孔明を載せて病院に通った。絶対に良くなると信じた。4日目に、腎臓などの検査があった。孔明は、奇跡的に、そして劇的に良くなっていた。先生には、「高齢だけれども、歯とかよく手入れされていて健康だったから、こんなに早く回復したのでしょうか。」と言われた。涙が出た。また、先生には、「孔明は手入れがいいので、きっと長生きしますよ。」とも言われた。うれしかった。

ぼくは、この経験を通して、お金のありがたさということがよくわかった。もし、家に孔明を治療するためのお金がなかったら、孔明が死んでいくのを黙って見ていることしかできなかつたらあつたら。そんなのは、悲しすぎる。いやだ。ぼくの大事な孔明の命を守ってくれたものはお金だった。

お金が無いと大事な人もものも守れないんだ。ぼくは、将来どんな人になるかわからないが、ぼくの愛する人たちを最後まで守れる人間になりたいと思っている。

そのためには、ある程度のお金をかせげる人にならないといけないんだとい



うことを、この経験から学んだ。そのためにも、しっかり勉強して、自分がやりがいを見つけられる職業につきたいと強く思った。

